

定 員 定員 8 0 名（先着順：定員に達した時点で大阪大学大学院言語文化研究科HPに掲示します。）
本講座は、大学の基礎・応用研究を学校の現場で活かしていただくため、小学校・中学校・高校などで英語教育に携わっている方および携わることを目指している方を対象にしていますが、広く英語教育に関心のある方も受講可能です。

講 習 料 1 0,5 0 0 円

参加申込み 受付期間 7 月 1 日（金）～7 月 1 5 日（金）（期限厳守）
①E-mail（アドレス：genbun-soumu@office.osaka-u.ac.jp）または下欄の「受講申込書」に、氏名（フリガナ）、年齢、住所、電話番号、メールアドレス、職業、勤務先名、選択講義をご記入のうえお申し込みください。
なお、「受講申込書」で申し込まれる方は、下記宛先まで郵送またはファックスでご送付願います。
宛先：〒560-0043 豊中市待兼山町 1－8
大阪大学言語文化研究科・外国語学部豊中事務室総務係
FAX：0 6－6 8 5 0－5 8 6 5
②お申し込み受付後、E-mailにて講習料の振込先等を通知いたします。通知に記載された方法により、指定振込銀行口座へ受講者氏名でお振り込み（手数料はご本人負担）願います。お申し込み後、1週間以内に通知が届かないようでしたら、お問い合わせください。
・お振り込みいただきました講習料は、欠席された場合でも返金できませんので、ご了承ください。

会 場 大阪大学大学院言語文化研究科他（所在地 豊中市待兼山町 1－8）
豊中キャンパスマップ <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/toyonaka/toyonaka.html>
電車によるアクセス 阪急電車宝塚線 石橋駅（特急・急行停車）下車 東へ徒歩約 1 5 分
モノレールによるアクセス 大阪モノレール 柴原駅下車 西へ徒歩約 1 5 分
アクセスマップ <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/accessmap.html>

問い合わせ：大阪大学言語文化研究科・外国語学部豊中事務室総務係
（E-mail: genbun-soumu@office.osaka-u.ac.jp TEL:06-6850-5855）

主 催：大阪大学大学院言語文化研究科 <http://www.lang.osaka-u.ac.jp/lc/>

後 援：大阪府教育委員会・兵庫県教育委員会

- ・受講にあたり、特別な配慮が必要な場合は、7 月 2 5 日（月）までに上記の問い合わせ先にご連絡ください。
- ・全講義（時間帯）の60％以上に出席された受講者の方には講座修了証を授与いたします。それ未満の方には受講証明書を後日送付いたします。
- ・お申し込みの際に必要なみなさまの情報は、連絡先の把握及び今後の公開講座運営上の統計資料作成、関連情報の提供以外には使用いたしません。

平成28年度大阪大学大学院言語文化研究科公開講座

「教員のための英語リフレッシュ講座」受講申込書（記載漏れがないようご注意ください）

(フリガナ)				年 齢	歳
氏 名					
住 所	(〒 -) 日中連絡可能な電話番号： ()				
E-mail (必須)	@				
職 業 (必須)		学校名	TEL： ()		
8 月 2 日（火）13:00～14:30	() 「生徒の英語能力を適切に測るためのテストとは」 () 「グローバル時代の文学的想像力－夏目漱石から現代英語文学作家へ」			それぞれの 時間帯で選択 する講義の () に○を 記入	
8 月 2 日（火）14:40～16:10	() 「英語学習者の学習者動機と情意のメカニズム」 () 「マスメディアの英語－言語使用とパブリックイメージ」				
8 月 4 日（木）14:50～17:10	「コミュニケーション」 () 「基礎」 / () 「中級①」 / () 「中級②」 / () 「上級①」 / () 「上級②」			第 1 希 望 から 第 3 希 望 まで 数 字 を 記 入	

平成2 8 年度大阪大学大学院言語文化研究科公開講座

「教員のための英語リフレッシュ講座」

日程：平成28年 8 月 1 日（月）、2 日（火）、3 日（水）、4 日（木）、5 日（金）
会場：大阪大学大学院言語文化研究科他（豊中キャンパス）

本講座は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学あるいは民間教育機関等の校種を問わず、英語教育の実践のために役立つ知識を提供することを主眼としています。グローバル化に対応するためのさまざまな政策が打ち出される中、日本の英語教育のあり方が新たに問われる今日においては、このような講座の果たす役割はますます大きくなるものと思われます。
本講座の講師は、英語教育学・英語学・英語史・英文学・音声学・応用言語学・社会言語学・認知言語学・コーパス言語学等を専門とする大学教員が中心で、それぞれの分野の知見に基づき、英語教育への応用について考察します。大阪大学の教員だけでなく、他大学の著名な先生方にも講義をお願いしております。また、英語教育に関する講義だけでなく、文字通りの「英語リフレッシュ講座」として、英語力自体をあらためてブラッシュアップしていただくための少人数クラスも設けています。
本年度はさらに、小学校英語教育への最新の取組として注目される大阪府の英語学習プログラム“DREAM”を中心テーマとするシンポジウムを企画しております。
本講座は、おかげさまで、平成14年度の発足以来、年々発展してまいりました。本年度の講座も、これからの英語教育について一緒に学ぶ有意義な 1 週間となることを楽しみにしております。

講義および講師

（所属大学名のない講師は大阪大学大学院言語文化研究科所属）

8 月 1 日（月）
10:00～10:20 オリエンテーション
10:30～12:00 「英語語法・文法の考え方、調べ方」
13:00～15:00 「英語らしい発音の科学－ダイナミックメカニズムと発音・聴解の秘儀」
15:10～16:40 「英語力を最大限に生かすESP」
英語リフレッシュ講座企画WG
八木克正関西学院大学名誉教授
成田一大阪大学名誉教授
（神戸女学院大学）川越栄子教授

8 月 2 日（火）
10:30～12:00 「英語の発音矯正指導法」
* 13:00～14:30 「生徒の英語能力を適切に測るためのテストとは」
* 13:00～14:30 「グローバル時代の文学的想像力－夏目漱石から現代英語文学作家へ」
* 14:40～16:10 「英語学習者の学習者動機と情意のメカニズム」
* 14:40～16:10 「マスメディアの英語－言語使用とパブリックイメージ」
（関西国際大学）有本純教授
今尾康裕准教授
霜鳥慶邦准教授
西田理恵子准教授
岡田悠佑准教授

8 月 3 日（水）
10:30～12:00 「教室で役立つ英語史の知識」
13:00～16:30 シンポジウム「小学校英語教育の新展開を巡って－大阪府の“DREAM”プログラム」
成田一大阪大学名誉教授、（和歌山大学）江利川春雄教授
（小学校英語科・英語活動アドバイザー）田縁眞弓先生、（“DREAM”開発プロジェクトリーダー）中原淳太氏

8 月 4 日（木）
10:30～12:00 「コーパス分析に基づく新しい語彙指導とライティング指導の展開」
13:00～14:30 「脳科学からみた英語学習過程の気づきについて」
* 14:50～17:10 「コミュニケーション基礎」
* 14:50～17:10 「コミュニケーション中級」
* 14:50～17:10 「コミュニケーション上級」
（神戸大学）石川慎一郎教授
（大阪市立大学）井狩幸男教授
グエン・ヘルヴァソン特任准教授
スティーヴ・ミュラー講師、デーヴィド・マレー講師
ジェリー・ヨコタ教授、アンドリュー・村上スミス准教授

8 月 5 日（金）
10:30～12:00 「英文を読む楽しみ－無茶会の無茶ぶり」
13:00～14:30 「形と意味の対応からせまる英文法－認知言語学的アプローチ」
14:40～16:40 「『国際英語』教育－多文化共生社会を目指して」
16:50～17:00 講座修了証授与式
沖田知子教授
小薬哲哉講師
日野信行教授
大阪大学大学院言語文化研究科長 木村茂雄教授

■同時時間帯に開講の＊印付きの講義は選択です。申し込み用紙に、それぞれの時間帯で選択する講義の（ ）に○を付けてください。
「コミュニケーション」は「基礎・中級・上級」のレベルの説明と講義内容を参考に、第1希望から第3希望まで、（ ）内に数字を記入してください。

講師プロフィール & 講義内容



英語語法・文法の考え方、調べ方

八木克正
関西学院大学名誉教授 専門：英語学

辞書編集、英語の語法・フレイジオロジー研究者。齋藤秀三郎著・豊田寛増補・八木克正校注『熟語本位英和辞典』（岩波書店）を9月刊行予定。
講義内容：どの本にも書いていない、誰も答えを知らない文法や語法上の問題は数限りなくあります。辞書や文法書、語法書の本をひもといても解らないことをどうやって調べればいいのでしょうか。具体的な問題を取り上げて、その解決法を考えてみましょう。今回の目玉は「例示の“such as”」と「クジラの構文」の予定です。



英語らしい発音の科学ーダイナミックメカニズムと発音・聴解の秘儀

成田 一
大阪大学名誉教授 専門：英日対照構造論・機械翻訳・言語教育/習得論

著書『日本人に相応しい英語教育』（松柏社）他、編著『英語リフレッシュ講座』（阪大出版会）他、新聞雑誌記事多数。英語教育総合学会会長。
講義内容：発声の生理的MRI画像、音読時の脳活動画像なども示しつつ、「ダイナミックな発音変容の仕組み」の理解を踏まえて、発音・聴解・音読の解説と訓練を行うとともに、「発音教育においては何を教えなければならないか」を理論的かつ実践的に論じる。発音評価機器や音読ソフトも紹介。



英語力を最大限に生かすESP

川越栄子
神戸女学院大学教授 専門：英語教育学(ESP)

著書に『ニュースで読む医療英語』（講談社）、『実践的時事英語医療版ーザ・デイリー・ヨミウリを読む』（大学教育出版）等。
講義内容：ESP（特定目的の英語）教育が英語教育の流れを大きく変えている。職業に必要な英語や特に関心を持つ分野の英語を教えることで、英語学習への興味とモチベーションを高め、英語力を最大限に伸ばすことができる。学生は将来その英語力を最大限に生かすことができる。



英語の発音矯正指導法

有本 純
関西国際大学教育学部教授 専門：英語音声学

ジーニアス英和大辞典で発音担当、『ことばと認知の仕組み』（三省堂）、外国語教育メディア学会で英語発音教育研究部会長
講義内容：調音法を指導しても、学習者は正しく発音できるとは限らない。日本語母語話者には独特の誤りパターンがあり、それを予測して対応すれば、最小限の矯正指導で効果を挙げることができる。音声学の側面と指導の実践について、様々なアイデアを提案しながら、演習も兼ねて行う。



生徒の英語能力を適切に測るためのテストとは

今尾康裕
言語文化教育論講座准教授 専門：応用言語学（言語テスト）

学習者コーパスからの知見をライティングテストに生かす方法を研究。Mac用のコーパス分析ツール、文字起こしツール等を開発。
講義内容：生徒が身につけるべき英語力とはどのようなものか、また、それが身についているかを確認するにはどのようなことを考慮する必要があるのか、などについて 教育と測定の両側面から理論的背景なども踏まえつつ考える。



グローバル時代の文学的想像力ー夏目漱石から現代英語文学作家へ

霜鳥慶邦
言語文化システム論講座准教授 専門：英語文学・文化

博士（言語文化学）。近現代英語文学・文化研究。近著に『文学理論をひらく』（北樹出版）、『ロレンスへの旅』（松柏社）など。
講義内容：夏目漱石の文学・文化論を現代にひきつけて再評価することを出発点として、グローバル時代に活躍中の複数の英語文学作家たちの発言を参照しながら、外国の言語・文学・文化を学ぶことの意義について、一度基本に立ち返って考えてみたいと思います。



英語学習者の学習者動機と情意のメカニズム

西田理恵子
言語文化教育論講座准教授 専門：応用言語学

博士（外国語教育学）。第二言語習得時における学習者動機と情意要因を研究。著書に*Empirical studies of affective variables and motivational changes among Japanese elementary school EFL learners*（金星堂）他がある。
講義内容：本発表では、英語学習者における学習者動機と情意のメカニズムについて理論と実践の視点から論じていく。第二言語習得時における学習者動機と情意に関する理論的背景を概観し、プロジェクト型授業を通した学習者動機と情意に関する変化の傾向について発表する。



マスメディアの英語ー言語使用とパブリックイメージ

岡田悠佑
言語文化教育論講座准教授 専門：会話分析・応用言語学

博士（学術）。相互行為能力としてのコミュニケーション能力を研究。*Assessing second language pragmatics* (Palgrave-Macmillan)などの学術書や*Journal of Pragmatics*などの国際誌への掲載論文多数。
講義内容：マスメディアはどのようにしてパブリックイメージを形成するのか。本講義では英語でのインタビュー番組やニュース報道、議会中継を題材に、言葉の選択が登場人物の特定のイメージ構築にどう帰結するかを明らかにする。さらに事例の分析をとおして、巧妙な英語の使い方を議論する。



教室で役立つ英語史の知識

尾崎久男
言語文化比較交流論講座准教授 専門：中世ゲルマン語学

博士（英語学）。日本中世英語英文学会編集委員。印欧語全般（特にゲルマン語）を対象として、言語間の相互影響を調査・研究している。
講義内容：英語史に関する知識があって初めて、現代英語の正確な姿が見えてきます。例えば、どうしてchildは二重母音なのにchildrenは単母音なのか、また、どうしてlongとlengthに母音の違いがあるのか、英語史の観点から注目してみて下さい。

シンポジウム：小学校英語教育の新展開を巡ってー大阪府の“DREAM”プログラム

文科省は、2020年度から小学校5、6年生で中学の内容を前倒した授業を週2回、3、4年生で「外国語活動」を週1回実施する計画だが、担当教員の資格を含めこの内容では根本的な改善にはつながらない。大阪府では帯時間にDVD等で、フォニックスのほか、多様な構文や複文を含む「生活英語」をアニメとネイティブの発音で学ぶ「英語学習プログラムDREAM」を本年度4月から大阪府下小学校の25%において開始する。シンポジウムでは、小学校英語教育の画期的な新展開を巡り、①中原氏がDREAMのデモを行い小中高一貫英語教育について展望を述べ、②江利川氏が日本における明治以来の小学校英語教育の歴史を踏まえ文科省計画の問題点を指摘する。③田縁氏が小学校英語教育の現場の状況とDREAMの可能性について論じ、④成田氏が子供の言語習得の脳メカニズムと英語習得における運用の自動化の方略などを解説する。講演後に1時間ほどフロアからの質疑も含め討議理解を深める。



成田 一

大阪大学名誉教授
専門：英日対照構造論・機械翻訳・言語教育/習得論
著書『日本人に相応しい英語教育』（松柏社）他、編著『英語リフレッシュ講座』（阪大出版会）他、新聞雑誌記事多数。英語教育総合学会会長。



田縁真弓

私立小学校英語科・公立小学校英語活動アドバイザー
専門：早期英語教育
私立小中高一貫英語科アドバイザー。立命館大学・京都教育大学講師。公立小学校英語活動アドバイザー。小学生向け英語テキスト著者。



江利川春雄

和歌山大学教育学部教授
専門：英語教育学・英語教育史
英語教育史・政策論・協同学習論を三位一体で追求している。日本英語教育史学会会長。共著『世界と日本の小学校の英語教育』など。



中原淳太

前大阪府教育委員会教育イノベーション特命グループ長
“DREAM”開発プロジェクトリーダー
前大阪府教育委員会事務局 教育総務企画課 教育イノベーション特命グループ長。大阪府公立小学校英語学習プログラム“DREAM”開発プロジェクトリーダー。現大阪府健康医療部 保健医療室 保健医療企画課長。



コーパス分析に基づく新しい語彙指導とライティング指導の展開

石川慎一郎
神戸大学教授 専門：応用言語学・コーパス言語学

主著に『英語コーパスと言語教育』、『ベーシックコーパス言語学』、『言語研究のための統計入門』他。
講義内容：大規模な言語データを解析するコーパス言語学の進展により、従来は教師の経験や勘に委ねられることが多かったL2指導にも確かな指針が得られつつあります。本講義では、最新のコーパス調査の知見をふまえた語彙指導やライティング指導の在り方について具体的にお話しします。



脳科学からみた英語学習過程の気づきについて

井狩幸男

大阪市立大学教授 専門：神経心理言語学

博士（文学）「生きたことばを習得するための英語教育ー母語獲得と脳科学の研究成果を踏まえてー」学位論文(2009)、『バイリンガリズム入門』共著(2014)（大修館書店）など。
講義内容：英語学習過程において学習者の頭の中でどのような気づきが起きているのかについて、これまでの脳科学研究から得られた知見を踏まえて検討する。また、気づきとの関連で、ことばを意識せずに使えるということはどういうことなのかを、脳科学の視点から考察する。

コミュニケーション

基礎：基本的な英会話の力をリフレッシュしたい方におすすめ（たとえば、小学校の外国語活動に携わる方）

中級：スムーズな英会話能力を磨きたい方におすすめ

上級：英語によるディスカッションに積極的にチャレンジしたい方におすすめ（たとえば、英検準1級程度あるいはそれを目指す方）



基礎 Utilizing Visual Arts in Communicative Activities Gwyn Helverson

Utilizing visual art in the EFL classroom engages students via its drama, intent, and symbolism. In this session, participants will experience how art can be used to enliven functional, conversational activities as well as inspire content-based discussions.



中級 ②Encouraging creativity and originality to enhance fluency Dave Murray

The theme for this lecture is that of encouraging creativity and originality and using these characteristics as a means of enhancing fluency and speaking proficiency skills in both traditional and technology-based language lessons.



上級 ②Ideas for vocabulary building Andy Murakami-Smith

In today's information age, students can look up vocabulary. Is it no longer necessary to teach vocabulary? Or are there effective ways to help students learn? What kind of vocabulary do students of different levels need? Let's share opinions and ideas.



中級 ①Methods and techniques of utilizing Drama and Role Play Steve Muller

Drama and Role Play allow students to practice the target language (English) in authentic situations and give them confidence to use English in real situations.



上級 ①Networking in English with Professional Peers Gerry Yokota

What do you think is the best way to teach students to talk about Japanese culture in English? Bring your ideas and concerns, and look forward to collaborating with other teachers to produce effective lessons in this peer discussion group.



英文を読む楽しみー無茶会の無茶ぶり

沖田知子

言語コミュニケーション論講座教授 専門：ことば学

ことばと心の関係を総合的に捉える「ことば学」を研究。『アリスのことば学ー不思議のプリズム』（共著、2015）等。
講義内容：ことばの選択や文脈等も含め、使い手が「なぜこのような言い方をし、どのようなことを伝えようとしているのか」を意識して立体的にこころを読み解き、読み手としての「英文楽」を味わいたい。今回は『不思議の国のアリス』第VII章に仕掛けられた遊びをとりあげる予定。



形と意味の対応からせまる英文法ー認知言語学的アプローチ

小葉哲哉
言語認知科学講座講師 専門：英語学・認知言語学

博士（言語学）。日英語の動詞意味論と構文論を中心に、文法現象における統語・意味・談話の関係性について研究している。
講義内容：「形が違えば意味も違う」という考え方を基に、認知言語学的な視点から英文法を考察し、教室での応用を考えたいと思います。文型の意味、構文の書き換え、that節のthatの有無の違いなどを扱う予定です。



「国際英語」教育ー多文化共生社会を目指して

日野信行

言語文化教育論講座教授 専門：「国際英語」教育

World Englishes (Wiley), *Intercultural Communication and Language Education* (Springer)等の編集委員。共著に*Communicating with Asia* (Cambridge University Press), *Current Perspectives on Pedagogy for English as a Lingua Franca* (De Gruyter Mouton), *Principles and Practices of Teaching English as an International Language* (Multilingual Matters), *English as an International Language in Asia* (Springer)等。
講義内容：母語話者・非母語話者の垣根を越えた「国際英語」は、WE (World Englishes)及びELF (English as a Lingua Franca)の両学派を中心に、近年盛んに研究されるに至っている。本講義では、「国際英語」教育を多文化共生教育の一環と位置づける立場から、国際英語の学びの実践について論じる。